

NPO法人 都市災害に備える技術者の会

第6回 幹事会 議事録要旨

- 1 日 時：平成22年 10月 9日（土）12時00分～15時15分
- 2 場 所：NPO法人都市災害に備える技術者の会 大阪事務所
- 3 出席者：伊藤、太田、片瀬、貴志、廣野、山田（信）、山田（俊）（以上7名、敬称略）
- 4 資 料：(1)第6回幹事会 議事次第
(2)関西大学 河田教授との協議について
(3)幹事会創設の経過と方向付け
(4)幹事会の役割・位置づけについて
(5)災害対応に関するアンケート（再）

5 議事要旨

会議に先立ち、今後森田幹事に変わり新しく幹事に就任することとなった貴志幹事の紹介があった。

(1) 幹事会の今後の活動に向けて

○第5回幹事会以降の動きや新たな報告について

資料(2)に基づき企画委員長との協議結果について幹事長から説明があった。この中で、企画委員長の幹事会への対応について、

①NPOの活動、取組が円滑にできる環境を創ること、活動が活発になるよう「環境づくり」を行うことが自分自身の仕事と考えている。

②会員に「ああしろ、こうしろ」と言うつもりはない。任せる。

③会員への情報提供ではなく、「状況の共有」が大切。

と言った企画委員長の考え方をお聞きした。

幹事会としては、

①幹事会として大所高所から広く意見を聞く必要が生じた場合に相談に行く。

②幹事会への出席は1年に1～2度程度、幹事会の議題が参加するに相応しい議題の時を見計らって参加して頂く。

という考えで先生にご協力を願う事とする。

○NL20号の掲載記事について

- ・ 幹事会発足からこれまでの経過について、事務局長を交えて幹事会で協議
- ・ これまでの幹事会の活動内容が十分、発信できていないこと、またスピード感に欠けることなど、見直すべき事は見直し、NPO活動を活発化させる組織として、企画委員会、事務局等と連携し、取り組んでいくことで意見の一致を見る。
- ・ NLの掲載記事については、幹事長作成の記事を掲載する。
- ・ 幹事会の位置づけについて、組織図上では、事務局の中の組織とすることとなった。

(2) 今後の活動に向けての検討

○自治体とNPOのネットワーク形成について

- ・ 京都市に引き続き、他の自治体にも立ち上げを勧め、自治体間ネットワークづくりを推進する。現在、奈良県に働き掛けている。

○リスクコミュニケーションに関する講演

- ・ 京都大学矢守克也教授から2月5日に講演可能との返事を頂いた。

(3) その他

○災害経歴DB作成について

- ・ NL発送時に再度、会員に依頼。

NPO法人 都市災害に備える技術者の会

幹事会 第6回 議事録（補足）

これまでの幹事会の活動や取組については、第1回からの議事録に示すとおりであるが、幹事会発足当初から、企画委員会との関係について、一部の理事から「わかりにくい」という意見があり、「幹事会の位置付け」について事務局ならびに幹事会で議論を重ねて来た経過がある。

現時点ではまだ、幹事会規約が理事の承認を頂いたものの会員に配布できていないなど、課題を残してはいるが、幹事会がスタートしてから、約一年、今回で6回目の幹事会を開催し、この間、NPOのこれまでの活動を振り返るとともに、多くの会員がWGや研修会、啓発活動等に積極的に出来る環境、雰囲気づくりに向けた議論を行い、幹事会としてその果たすべき役割、期待される幹事会像を念頭に活動してきた。

第6回の幹事会では、事務局長を交え、NL20号に掲載予定の記事を材料にして、これまでの幹事会の進め方の評価と今後のあり方について協議を行うとともに、懸案となっている「幹事会の位置付け」を明確にするための協議の場を持った。

下記に示す通り、忌憚のない意見交換を行い、状況の共有化を図るとともに、今後に向けた考え方を議論し、その結果、幹事会の位置づけや今後の活動内容について一定の方向付けが出来たと考える。

その時の協議内容等について下記に示す。

記

○NL20号の掲載記事について

別添資料（事務局長作成の意見）を掲載するかどうかについて

- ・ 山田幹事長の意見（別途NL20号に幹事長として投稿している記事と整合性が取れないのでこの記事を載せた場合、会員が混乱する恐れがある。）
- ・ 太田幹事の意見（理事会、企画委員会が実質的に機能していないため幹事会が必要となった。山田幹事長はよく動き適任だと思っている。幹事会に対する制約が多いと活動しなくなることが心配される。この投稿文は幹事会に対する一つの意見・注意事項として残し、外部への広報活動にも使うNLに掲載する必要はない。
- ・ 片瀬幹事の意見（NLは会員以外の人目に触れる。会員間でもめていると誤解される可能性があり掲載するのは適切でない。）伊藤・廣野幹事も同意見。
- ・ 山田俊満事務局長の意見（この文章は数人の理事・顧問の同意を得ているので掲載すべきである。）

事務局長と幹事会の考え方については上記のとおりで、考え方に相違点はある。一方、お互い立場や職業の違いはあるものの、阪神・淡路大震災を契機としてボランティアな活動をおこない、技術者として社会貢献したいという「志」では一致している。

この思いを大切に、今後、事務局と密に連携を図るとともに、NPO発足時における技術士会の役割等を尊重し、相互連携を図りながら、NPOの目的に向かってそれぞれが努力していくことで意見の一致を見出した。

以上の結果、NL20号には掲載しない。但し、幹事会議事録として会員にメールで送るという整理案で合意。

また

幹事会の位置づけについて、組織図上では、事務局の中の組織とする方向で整理。

以上

[別紙] 山田俊満事務局長のコメント

幹事会創設の経過と方向付け

今年度の総会では、昨年秋より理事会や委員会（企画・事業）の活動を補完してより活性化させる新たな組織として「幹事会」を創設しようとする動きが示され、その為に当初から懸案の一つである規約が定められました。

これまでに到るには、この組織創設に当たっては震災発生直後からの多くの人や組織などの取り組みの歴史とかその流れを汲んだ上で進めてもらいたいとその一方では「現行で間に合うのではないか」とか、もし創設するのであれば「この様な場合、屋上屋を架すような組織にならないように注意しないと組織自体に混乱が発生しかねない」などと多くの意見や注意を頂きました。特に、笹山、溜水、河田、梅田他の諸先生からはご自身の多くの経験を元に意見されました。以来、多くのお忙しい理事を直接お訪ねして、私の時間の許す限り説明し、意見調整しました。

さて、半年程かけてその活動状況を見ながら、いくつかの問題点を挙げ、室崎、笹山、河田、溜水、梅田、尾見諸先生や山田信祐幹事長との最終段階の調整の上でいよいよ幹事会の活動が始められることになりました。その内容についての要点を以下に記しておきます。

- (1) 幹事会の役割と位置づけ 理事会や企画（将来は事業も）委員会を設けてその活動を速やかに行う為に補完的な働きをするという役割を担う。従って、理事会の元にある委員会や事務局の統率下にあつて、積極的に動く事が期待される。
- (2) 特に創設に際して企画委員長との調整が必要と考えられたので、9月6日関大高槻キャンパス河田学部長室で、河田、山田両氏と私（事務局長）の三者会議をもちました。そこで河田企画委員長を補佐して進めている従来からの活動の他にこれからは既存の4ワーキンググループの活動に対しても、資料や成果の共有化を計りながら進められるために幹事会は補完的な役割が求められる。
- (3) その他、理事の多くからのご意見は、必ず事務局を経由して理事長（理事会）に説明の上進めるという「組織を尊重すること」が守られなければならない。これを省略する場合に事務局長、理事長に説明し、同意を得た上で進める。また結果も報告する。

以上の話し合いの結果を幹事会は尊重する。事業委員会を活動させることも含めて、当面は既存する組織活動の補完することに始まって、将来は本会活動の中心部である事が期待されています。終わりに、今回幹事会を創設し、この活動が本来の目的に適うように共にご検討下さり、ご意見を下さった新旧理事長、副理事長や委員長の諸先生の皆様等に対しまして、この紙面より厚くお礼を申し上げます。

以上

（文責、山田俊満事務局長）